

大会テーマ

「クリエイティブ・アーツセラピーにおける境界線」

(ハイブリッド開催)

【日時】	【会場】	【参加費】
2024年11月10日 (日) 9:30~16:30 対面参加受付開始9:00	名古屋音楽大学 & オンラインZOOM (ハイブリッド開催)	5,000円 (会員) 8,000円 (非会員)

前回大会の「“感じる”を知る ー見える化するクリエイティブ・アーツ」からもう一步あゆみを進め、今大会はクリエイティブ・アーツセラピーの実践の中で生じる境界線について、ABRに絡めて見える化することを試みます。午前中のシンポジウムでは、2名の話者提供者と共に語り合い、その日会場に集まる仲間と一緒に答え探しをするプロセスを試みます。午後には、“今・ここ”での取り組みが現在進行形で変化し続ける表現をセラピーそのものとして扱うアプローチにおいて、表現はどこからセラピーに変わるのか？セラピーの過程では、あなたーわたしの境界線はどうなっている？などの問いを、事例や体験をもとに考えます。



【参加申込】

WEBフォームよりお申し込みください。
<https://forms.gle/fjzRvbDigBTrmUxn6>



【本大会ご参加にあたって(お申込前にご確認ください)】

- ・参加者の都合による参加費の返金はできません。オンラインから対面、対面からオンラインへの変更はメールにて承ります。
conference2024@jcata.orgまでご連絡ください。
- ・対面参加の方は、事前にプログラムの選択が可能です。定員があるものは申込順となりますのでご了承ください。
- ・本大会にご参加にあたり、守秘義務の遵守、録画・録音・撮影の禁止、プライバシーの配慮等に同意の上で、お申し込みください。

大会スケジュール

ROOM 1

ROOM 2

9:00-

受付開始（オンラインは9:25～）

9:30-12:00

シンポジウム

ハイブリッド

「あなたにとっての境界線とは
～語らいの中で探る、深める」

話題提供：伊東 留美

中野 左知子

ファシリテーター：猪狩 裕史

ROOM CLOSED

12:00-13:00

昼食

リフレクシオンルーム

13:00-14:15

分科会Ⅰ 演題発表

ハイブリッド

「アートセラピーにおけるクライアントとセラピストの立ち位置についての考察」

間 美栄子

「音楽療法におけるセラピストの音楽選択プロセスについての探究：現象学的研究」

岩田 彩音

分科会Ⅱ ワークショップ

対面のみ

「自分から離れた役」
(定員10名)

宇野 寛子

14:15-14:30

休憩

14:30-15:45

大会長講演 ハイブリッド

「セラピーの境界線を考える」

長江 朱夏

リフレクシオンルーム

15:45-16:00

休憩

16:00-16:30

クロージング ハイブリッド

ROOM CLOSED

16:30-17:00

(閉会后)

ROOM CLOSED

リフレクシオンルーム

大会プログラム

9:30-12:00 シンポジウム **ハイブリッド**

「あなたにとっての境界線とは～語らいの中で探る、深める」

話題提供者のお二人の話を受けて、語らいの中でそれぞれにとっての境界線について探る時間です。

ファシリテーター：猪狩 裕史（名古屋音楽大学）

「クリエイティブ・アーツセラピーにおける探求と探究」

伊東 留美（南山大学）

ミュージックセラピストであるMitchell Kossakは、”Art-based enquiry is at the heart of what we do as art-based therapists.”と述べています。アーツセラピストである私たちは、クライアントが自分探しをする場を見守りながら、我々も何かを探しているのではないのでしょうか。それは、探求なのか探究なのか（はたまた、研究なのか）。会場の皆さんと一緒に考えていけたらと思います。

「自分自身の在り方が決める境界線」

中野 左知子（合同会社Treehouse Studio）

ドラマセラピストになってからの20年の間、私自身の学びと成長、ライフスタイルの変化により、私の役割や目標は変化しています。ドラマセラピーとその他の学びが私の中でどのように溶け合って一つになっていったのか。ドラマセラピストとしてのアイデンティティの変化が、仕事にどう影響し、さらにどんな境界線を作り出していったのか。この20年間におけるドラマセラピストとしての私の在り方の変化から、「境界線」について一緒に考えてみたいと思います。

リフレクションルーム

表現を通して自由に過ごすスペースです。インプットしたこと、感じ取ったこと、刺激を受けたことを個々にプロセスしたり、表現の中で交流したりするために活用してください。

※昼休み、14:30-16:00、クロージング後30分開室



大会プログラム

13:00-14:15 分科会

※本学会会員による発表（対面参加の方はどちらかを選択）

分科会I 演題発表

ハイブリッド

① 「アートセラピーにおけるクライアントとセラピストの立ち位置についての考察」

間 美栄子(心療内科ささえ愛よろずクリニック)

ビジュアルアートによるアートセラピーにおいては、クライアントが絵を描く、粘土造形をするなどのアートに取り組み、セラピストはその過程を見ていることがこれまで一般的だった。発表者は、クライアントとセラピストの立ち位置をいまここで共に生きる「同志」としており、セッションの中でセラピストも絵を描き、体験の共有をしている。セラピューティックリレーションシップのバウンダリーの変容を事例を用いて考察したい。

② 「音楽療法におけるセラピストの音楽選択プロセスについての探究：現象学的研究」

岩田 彩音(洛和会京都音楽療法研究センター)

本研究は、音楽療法士が音楽的要素を選択するプロセスについて探究したものである。音楽療法の即興演奏においてインスピレーションがいつ降りてくるのかという筆者の疑問から、熟練した複数のノードフ・ロビンズ音楽療法士にインタビューを実施し、現象学的研究法を用いて分析した。その結果、5つのプロセスによって音楽的アウトプットが行われることがわかった。このことから、筆者はインスピレーションは魔法のように奇跡的なものではないという気付きを得た。本学会では、研究結果の詳細を報告し、音楽以外のアプローチでも適用するのか、参加者と議論していきたい。

分科会II ワークショップ

対面

「自分から離れた役」

宇野 寛子(プレイフルネスUNO)

ドラマセラピーを実践すると「何かの役になってください」と指示をすると、大人はなかなか「役」が思いつかない現象が見られた。今回のワークショップは「役」を思いつくためにプレイフルなワークを取り入れ、最終的には「自分から離れた役」を感じていただく。その「自分から離れた役」から各自が考察できることをシェアする。

大会プログラム

14:30-15:45 大会長の講演

ハイブリッド

「セラピーの境界線を考える」

長江 朱夏（名古屋音楽大学）

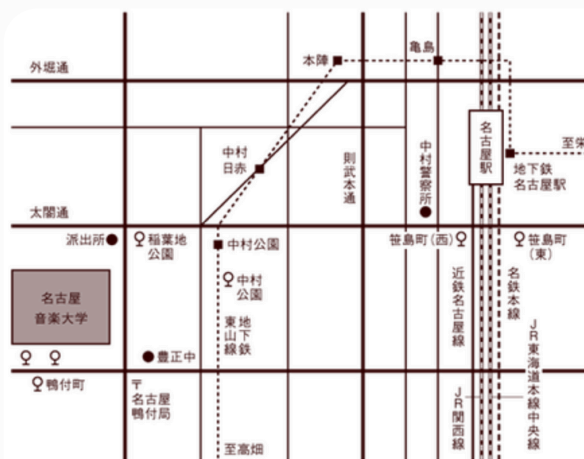
ノードフ・ロビンス音楽療法では、クライアントが創造的活動に没頭することがセラピーに繋がるという考え方で臨床を行います。この場合、セッション中に起こることは、全てアート表現と捉えるべきなのか？セラピーの目標に沿った取り組みの始まりと終わりの節目があるのか？また、セラピーの過程では、あなたの音楽と私の音楽というはっきりした区分けではなく、私たちの音楽というあり方が生まれることについて、具体的な場面をもとに考えてみたいと思います。

16:00-16:30 クロージング

ハイブリッド

アートを通して 大会一日を振り返ります。色で表したり、体を動かしたり、楽器で音を鳴らしたり、台詞にしてみたり、その場の雰囲気にしっくりくる表現方法を選び、即興的に展開します。

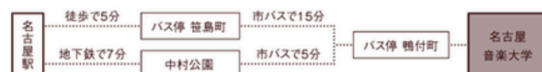
アクセス



対面会場のご案内 名古屋音楽大学

JR名古屋駅から

- バス停「笹島町」から市バス栄24号系統「稲西車庫」行きで15分、「鴨付町」下車すぐ。
- 地下鉄東山線「高畑」行きで7分、「中村公園」下車。中村公園バスターミナルから市バス中村13号系統「稲西車庫」行きで5分、「鴨付町」下車すぐ。



【お問い合わせ】

conference2024@jcata.org (JCATA第8回学術大会運営委員会)

主催 一般社団法人日本クリエイティブ・アーツセラピー学会

www.jcata.org